

四国遍路の変容と地域の取り組み

山川 友貴

キーワード：四国遍路，交通，観光ツアー，四国

1. はじめに

宗教的な意味をもち、文化・歴史的な価値や修業としての側面をもつ巡礼行動が、かつての四国遍路であった。しかし、現代の四国遍路は、徒歩中心の巡礼から乗り物を利用した巡礼へと巡礼方法が変化し、年齢を問わず様々な人々が巡礼行動を行えるようになった。本研究の目的は、四国遍路の位置づけの変容と、現代の四国遍路について、観光ツアーとの関わりを明らかにすることである。

本研究では、まず、四国の全体像を客観的に捉え、文献から四国遍路の概要と歴史についての検討を通した上で、観光として四国遍路を行うようになった要因を考察する。また、大手旅行会社（取扱い額上位 10 社）の HP から、四国遍路についての観光ツアーを取り上げ、各企業の提案する観光ツアーを比較・検討する。

2. 四国の概観

四国は、日本列島を構成する島の 1 つである。徳島県・香川県・愛媛県・高知県の 4 県で構成されており、瀬戸内海を挟んで近畿地方・山陽地方・九州地方に 3 方を囲まれた位置にある。海岸線長は 2,091 km であり、総面積は 1,879,287 km²で、北海道・九州・本州の 4 島の中で最も小さい。

年間平均気温はそれぞれの県庁所在地で、徳島市 16.3℃、高松市 16.3℃、松山市 16.4℃、高知市 16.9℃となっており、四国全域での気温差はあまり見られない。しかし、年間降水量では、徳島市 1,453.8mm、高松市 1,082.3mm、松山市 1,314.9mm、高知市 2,547.5mm と、上記のように気候の違いから降水量の差がみられる。

四国の総人口は 2010 年現在で、3,977,282 人で世帯数は 1,605,565 戸である。2005 年と比較すると、四国 4 県全てで人口は減少しており、総人口も 109,175 人減少している。愛媛県や高知県では、3 万人を超える人口減少となっている。

交通面では、四国と本州をつなぐ交通手段としては陸路・海路・空路の 3 ルートがある。

陸路は 3 つのルートがある。まず 1 つは、1988 年に開通し、岡山・香川間を 1 時間で結ぶ、瀬戸中央自動車道の瀬戸大橋（児島・坂出ルート）である。次に 1998 年に開通し、神戸・徳島間を 1 時間 30 分で結ぶ神戸淡路鳴門自動車道の明石海峡大橋（神戸・鳴門ルート）である。最後に、1999 年に開通し、広島・愛媛間を 3 時間で結ぶ西瀬戸自動車道の瀬戸内しまなみ海道（尾道・今治ルート）である。これらの 3 路線を、本州四国連絡道路と総称しており、本州・四国間の移動に利用されている。瀬戸大橋が開通した 1988 年には、香川県における県外観光者の入込数が前年の 4,904,000 人から 10,351,000 人と倍増している。また、明石海峡大橋や瀬戸内しまなみ海道の開通時にも、同様に県外観光客数が増加している（図 2）。このことから、陸路は現在重要な役割を果たしている。その他、4 県に共通して、2009 年に高速道路の休日上限 1,000 円などの制度による影響で、乗用

車や観光バスの入込が大幅に増加し、全体として県外観光客数は増加している（図 1）。海路は、全国各地から四国に向けてのフェリーが出ている。所要時間は、東京・徳島間が約 18 時間、大阪・徳島間が和歌山港経由で約 3 時間、福岡・松山間が約 7 時間である。空路は、四国の目的地によって多少の時間差がある。東京・徳島間を 1 時間 30 分、福岡・徳島間を 1 時間で結んでいる。

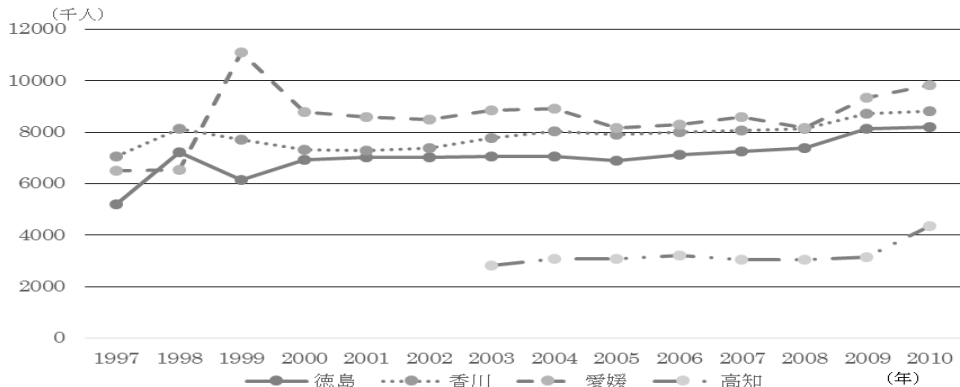


図 1 四国 4 県の県外観光者の入込数推移（1997 年～2010 年）
出所）徳島県 HP，香川県 HP，高知県 HP，愛媛県 HP より作成

3. 四国遍路の変容

四国遍路は、徳島県・高知県・香川県・愛媛県の四国 4 県にある弘法大師ゆかりの地の寺院、88 カ所を巡るというものである。遍路道は全長 1,400 km あり、徒歩（男子健脚基準）で約 40 日の日数が必要となる壮大な巡礼の旅である。四国遍路における寺院は「札所」と呼ばれ、それぞれに 1 番から 88 番まで番号がついている。四国 88 カ所の札所は、4 県それぞれに分布しており、1 番から 23 番が徳島県、24 番から 39 番が高知県、40 番から 64 番が愛媛、66 番から 88 番が香川県となっている。

四国遍路であるが、その起源は弘仁 6 年（815 年）弘法大師が 42 歳の時に開創された。大師の入定後、高弟真済がその遺跡を遍歴したことが始まりという説や、衛門三郎が自己の非を悟り四国の霊地を巡ったという説など、発端として様々な説が挙げられている。

こうした四国遍路は、戦後になり交通の整理がおこなわれるようになったことで、巡礼の方法が歩き遍路から様々な交通機関を使用する遍路へと移り変わった。現在では自家用車・列車・フェリー・飛行機など、様々な交通機関を用いて四国を訪れることができる。

四国遍路の所要時間に関しても、徒歩（男子健脚基準）で約 40 日必要とされていたものが、バスや列車を利用する場合は約 20 日、乗用車やタクシーを利用する場合は約 8 日の期間へと短縮された。様々な交通機関が発展することで、人々の四国遍路にかかる時間を削減することにつながったのである。自家用車やレンタカーを用いることで、団体でのバスや公共交通機関よりも立ち寄りに自由がきき、料金としても低く抑えることが可能となった。また、戦後に行われた交通の整理や、交通機関の発達により、四国への観光入込が増加し、四国遍路はより手軽に行うことが可能となった。

しかし、こうした交通の発達により失われたものがある。四国遍路の特徴である地元住民とのコミュニケーションの機会である。四国遍路においては、巡礼として寺院を参拝するだけでなく「巡る」という行為にも、宗教的な意味合いがあるとされている。四国遍路には「お接待」という慣習が古くからある。巡礼者を弘法大師と同じと考え、その巡礼者

に対して食べ物などの施しを行うことで、お接待を施した者自身にも功德があるとされるものである。こうしたお接待の慣習も、巡礼手段の変容により変化している。自家用車やバスなどの公共交通機関を利用し、巡礼を行うことにより、札所間の移動が道を通り駐車場と駐車場とを移動し参拝する点と点を結ぶ巡礼(点巡礼)に変化する。点巡礼の場合、参拝者は地元住民とのコミュニケーションを図る機会は減少し、「お接待」の成立も難しいものとなる。

このように、現代の巡礼方法は、札所と札所の道を通る線巡礼から点巡礼へと、交通の整理と交通機関の発達により変化した。その中で、四国遍路の「お接待」の機会は減少し、線巡礼の中でのコミュニケーションの場も減少している。

4. 観光ツアーと四国遍路

各企業で取り扱われているツアーについて、主要旅行業者の旅行取扱状況取扱額上位10社(表1)の中で、四国遍路に関する観光ツアーを取り扱っている旅行会社を対象とした。具体的には、JTB、阪急交通社、クラブツーリズムである。そして、それぞれの日程・料金・プラン・各観光ツアーの特徴などについて検討し、現在企業から遍路希望者に対して、どのような観光ツアーの案内があるかを検討した。

比較内容は、1日に巡る札所の数、出発地・金額・移動手段・1ヶ月の平均開催日数・最小催行人数・宿泊日数・所要月数である。1日に巡る札所の数では、表2が示すとおりJTBの発行する観光ツアーは、名古屋発で日帰り5カ所を巡る回から2泊3日19カ所を巡るものまで用意されている。一方、阪急交通社の発行する観光ツアーでは、大阪・兵庫・奈良など関西一円から観光ツアーが出ており、また全ての観光ツアーが日帰りか1泊2日である。そのため、1回の観光ツアーで巡る札所の数は、3カ所から11カ所とJTBの観光ツアーと比較しても少なくなっている。クラブツーリズムの観光ツアーは、東京発の全1回で88カ所全てを巡りきる観光ツアーや、全6回にわたる観光ツアーがある。全6回の観光ツアーは日数の関係上、他2社の1日に巡る札所の数よりも多い。1回平均17札所を巡り、5回で88カ所を満願する。そして最終回では、和歌山の高野山にてお勤め参拝を行う。このため6回目に巡る札所の数は0となる。なお、最終6回以外は全て2泊3日の観光ツアーであり、1回にかかる平均料金も他のツアーと比較して割高になっている。88カ所全ての札所を巡礼する所要日数は、最短がクラブツーリズム全1回で満願の観光ツアーで14日であり、他の観光ツアーは数回に分けて巡礼を行うことから、約8か月から1年の期間を要する。

移動手段について、四国に入るまでの移動方法が旅行会社によって異なる。JTBのツアーは名古屋から大阪や岡山まで新幹線で移動し、その後はバス移動中心となる。阪急交通社のツアーは、基本的には関西方面からバスでの移動となる。クラブツーリズムでは、東京から四国までの移動がバスや新幹線ではなく、飛行機と設定されている。この他にも、山頂に位置している66番札所の雲辺寺へは、どの旅行会社のツアーにおいても、ロープウェイを利用している。12番札所~13番札所や27番札所~28番札所まで、立地の関係上タクシーを利用することもある。このタクシーとロープウェイは全ての旅行会社が移動手段とし設定している。

1ヶ月の平均開催日数はJTBが5日、阪急交通社が9日、クラブツーリズムが1日と旅行会社によって大きく異なった。一方で、ツアーの最小催行人数はクラブツーリズムの全1回で満願するものが15人、残りのツアーは全て30人で催行されるという結果であった。

今回の比較で取り扱った多くのツアーがバスを利用した巡礼を提示しており、本州四国連絡道路の開通による交通網の発達が、四国遍路をより活性化させたことが読み取れる。しかし、その反面歩き遍路のみでのツアーの取り扱い、わずか1社であった。

表 1 主要旅行業者の旅行取扱額（平成 24 年 4 月分～25 年 3 月分）

順位	企業名	取扱額(億円)
1	JTBグループ	14,466
2	阪急交通社	3,874
3	日本旅行	3,869
4	H.I.S.	3,783
5	近畿日本ツーリスト	3,277
6	楽天トラベル	3,274
7	ANAセールス	2,034
8	JALパック	1,690
9	クラブツーリズム	1,529
10	トップツアー	1,145

出所) 観光庁 HP (<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/toriatsukai.html> 2015 年 12 月 15 日アクセス) より作成

表 2 ツアー比較

ツアー名	JTB(順打ち)	JTB(逆打ち)	阪急交通社	クラブツーリズム(全1回)	クラブツーリズム(全6回)
出発地	名古屋	名古屋	大阪	東京	東京
金額(円)	6,980～62,800	25,800～62,800	3,980～32,980	365,000～373,000	63,800～79,800
移動手段	バス、タクシー、新幹線 ロープウェイ、ケーブルカー	バス、タクシー、新幹線 ロープウェイ、ケーブルカー	バス、タクシー、ロープウェイ	バス、タクシー、飛行機 ケーブルカー、カーフェリー	バス、タクシー、飛行機 ロープウェイ、ケーブルカー
月平均開催日数(日)	5	5	9	1	1
最少催行人数(人)	30	30	30	15	30
宿泊日数(日)	14	8	11	14	11
所要月数(ヵ月)	9	8	13	1	8

出所) JTB HP, 阪急交通社 HP, クラブツーリズム HP より作成

5. おわりに

本研究では、四国遍路についての位置づけの変容と現代の様相を調査した。そして、観光化した現在の四国遍路ツアーについて検討した。

四国遍路は、戦後に行われた交通の整理や、交通機関の発達により、歩き遍路から自家用車や公共交通機関を利用した遍路へと変容し、巡礼者が増加した。四国遍路の所要時間に関しても大きく短縮され、より手軽に四国遍路を行うことが可能となった。この変化から四国遍路は、札所と札所の道を巡る線巡礼から道を通過し札所と札所を巡る点巡礼へ移行したといえる。

四国遍路を観光ツアーとして取り扱う旅行会社は、取扱額上位 10 社中 3 社であった。1 回で 88 カ所を巡りきるものから、12 回に分けて満願するものなど、巡礼者のニーズに応じた観光ツアーを、各旅行会社が提案している。また、多くの旅行会社が、本州・四国間の移動にバスを利用した観光ツアーを提示しており、本州四国連絡道路の開通が、四国遍路をより活性化させていることがわかる。しかし、歩き遍路でのツアーの取扱いは、わずか 1 社となっており、多くの観光ツアーはバスやタクシーなどの交通機関を利用している。これらのことから、現代の四国遍路が線の巡礼から点の巡礼へと変容している。

引用文献

- 梶井一暁 (2011) : 『大学と学校の連携による四国遍路歩き実践に関する研究』, 鳴門教育大学研究紀要第 26 巻 pp.20~26
- 近藤喜博(1971) : 『四国遍路』, 桜楓社 172p.
- 水谷昌義(2012) : 『四国遍路の変容から見る現代の巡礼の方向性』, 東京経大会誌第 278 号 pp.93~113
- 森栗茂一 (2011) 『人も歩けばコミュニケーションにあたる』, 大阪大学 65p.
- 森正人(2002) : 『近代における空間の編成と四国遍路の変容』, 人文地理第 54 巻 6 号 pp.1~22

引用 URL

- 四国八十八カ所霊場会ホームページ <http://www.88shikokuhenro.jp/map.html> 2015 年 12 月 13 日アクセス
- 気象庁ホームページ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 2015 年 12 月 13 日アクセス
- 徳島県ホームページ <http://www.pref.tokushima.jp/docs/2011102600126/files/23doutai.pdf> 2015 年 12 月 14 日アクセス
- 香川県ホームページ <http://www.my-kagawa.jp/special/research/h26report.pdf> 2015 年 12 月 14 日アクセス
- 高知県ホームページ <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/020101/24doutaisyousai.html> 2015 年 12 月 14 日アクセス
- 愛媛県ホームページ http://www.pref.ehime.jp/h30200/documents/1_suikai.pdf 2015 年 12 月 14 日アクセス
- 観光庁ホームページ <http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryoutoukei/toriatsukai.html> 2015 年 12 月 15 日アクセス
- JTB ホームページ <https://www.jtb.co.jp/med/chubu/feature/domestic/pilgrimage/> 2015 年 12 月 21 日アクセス
- 阪急交通社ホームページ <http://www.hankyu-travel.com/kokunai/junrei/shikoku88/tour/> 2015 年 1 月 8 日アクセス
- クラブツーリズムホームページ <http://www.club-t.com/theme/culture/kokoro/shikoku/> 2015 年 1 月 10 日アクセス

Historical Change in Shikoku Pilgrimage and Regional Activities

YAMAKAWA Tomoki

Key Words : Shikoku, Shikoku pilgrimage, traffic, Sightseeing tour